

# Hi! アンドしです

(町・外国人社会教育指導員)

私が小野町に来てからすでに1ヶ月が過ぎました。私は、今の仕事ほど人生の中で幸せなことはいえないと言えます。みなさんはとても温かく支えてくれます。そして、英語と外国の文化や慣習を学ぼうとする強い意欲を持っています。

国際的なことを言えば、小野町は小さい町ですが、私はたくさんの外国人がいることがうれしく、驚きました。私は小野町で韓国人、中国人、アメリカ人、そして私以外のフィリピン人に会いました。私は小野町で



生活するブラジル人の家族がいることを聞きました。そして、もちろん日本人もいます！。私は小野町にいる間に、私達みんなが素晴らしい国際的な体験を共有できることを希望します。

私は先週、英語サマースクールのデーブ先生と東京に行きました。私達はNFLのアメリカンフットボールの試合を見るために東京ドームに行きました。東京は規模だけではなく、性格も小野町と大きく違います。ここ日本では、すべての場所がどこか新しく刺激的で私を驚かせますが、小野町は明らかに特別な魅力と美しさを持っています。

私はお盆休みに再び東京に行きます。私はこの特別な日本の伝統に興奮しています。私は、祖先の霊を敬う日本のこの特別な期間から世界が学ぶことができると思います。私達の祖先が私達のためにしたことを認めることがとても重要であると私は思います。

※追伸 もし、あなたが私と英語を話したいとか、親しく会話をしたいと思うなら、公民館に来るのをためらわないでください。私はいつも新しい人に会うことがうれしいです。

## ふるさと小野町会 ふれあい通信

### 我がふるさとに感謝

吉田 榮 伸

(夏井出身)

ふるさとを離れ、43年目を迎えました。3年前に定年退職(42年間の会社勤務)し、現在は富士山が遠望できる神奈川県藤沢市の自宅で、趣味の世界を楽しんでおります。

「陽はさんさんと輝きて笠山(矢大臣)のもゆるとき我等はここに育まれ…」昭和33年度に卒業した、我が夏井中学校の校歌です。

私のふるすとは、磐越東線小野新町駅まで徒歩約30分の小野町夏井作田で、自称ふるさとの富士山である『笠山』が常に一望できる山あいの地です。

私は、1943年(昭和18年)、7人兄弟の三男としてこの地に誕生しました。生家は専業農家で、ふるさとを離れるまでの18年間に、米作り、麦作り、養蚕、たばこ栽培、酪農、木炭焼き、野菜栽培、杉の植林等を手広く展開し、当時は機械化がほど遠い時代で、常に人手不足のため、幼少時よりこれらの仕事に駆り出され、大いに鍛えられました。

今思うに、これが私の根性、精神力、体力の源となり、後の社会生活に大いに役立ったのではないかと思っております。

夏井第一小学校、夏井中学校、いわき市の平工業高校で学び、昭和37年4月に神奈川県の日産自動車横浜工場に就職しました。

今は亡き長兄に平駅まで見送りしてもらい、一抹の不安を胸に、一路就職先に旅立ったことを思い出します。

日本経済が高度成長に入る時代で、自動車産業もまさに大量生産体制に入ろうとする時期、一人前のエンジニアになるべく先輩達に鍛えられ、不安を抱えながらの多忙極まる毎日で、私のサラリーマン生活がスタートしました。

以降、会社を取り巻く環境がめまぐるしく変化する中、ふるさとで培った体力と根性を発揮し、定年に至るまでの42年間は無欠勤で終えることが出来ました。

年に1〜2度帰省しますが、皆さんの努力で発展、活性化する『ふるさと小野町』の変化を心強く感じております。

最後になりますが、根性を植え付けて頂いたふるさとに感謝しつつ、残暑厳しい折柄、皆さんの御健勝を心からお祈り申し上げます。

